

授業科目	生理学実習				
担当者	木村 晃大 (実務経験者)				
実務経験者の概要	医師としての臨床経験があり、神経科学の研究を行っている。				
学科名	理学療法学専攻	学 年	2年	総単位数	1単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

解剖学・生理学・運動学の講義を踏まえ、環境の変化・運動に対する生体の反応や恒常性維持について学習する。木村 晃大 (実務経験者)

## ■ 到達目標

人の生理機能を自らの手で計測し、その結果を解析・考察する事により、人体機能のダイナミクスやホメオスタシスが維持されるメカニズムを理解する。また、この実習を通して、医療従事者として必要な姿勢や洞察力を養う。

## ■ 授業計画

- 第1回 実習オリエンテーション
- 第2回 講義・機器取扱い実施確認1
- 第3回 講義・機器取扱い実施確認2
- 第4回 講義・機器取扱い実施確認3
- 第5回 講義・機器取扱い実施確認4
- 第6回 実習1
- 第7回 実習2
- 第8回 実習3
- 第9回 実習4
- 第10回 実習5
- 第11回 解説(講義)
- 第12回 解説(講義)

## ■ 評価方法

【科目試験(筆記試験) 50%】 実習レポート(50%)

## ■ 授業時間外の学習(予習・復習等)について

生理学実習では、参考書などを調べて考えることで、“課題を自分で解決する事が出来る様になる事”を一つの目標にしています。

また、全ての内容は国家試験に直結します。積極的に色々な参考書を調べてレポートを作成し、各項目について理解を深める様に努めて下さい。レポートの評価では①内容のオリジナリティ、②各項目について深く理解しようとする努力が認められるかどうか、を重視します。

同学年、前年度の物を問わず、レポートのコピーはカンニングと同様の行為であり、一切認められません。発覚した場合には厳罰をもって対応します。

## ■ 教科書

--

## ■ 参考図書

書名：標準生理学(第7版)

著者名：小澤 滯司 他

出版社：医学書院

## ■ 留意事項

『小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。』

## ■ 講義受講にあたって

出席や実習中の態度も成績評価に含まれます。レポート提出は期限厳守のこと。レポート未提出は再履修とします。被験者の安全や守秘義務を守る事を念頭にして、真剣に取り組むこと。